

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800064		
法人名	社会福祉法人高佳会		
事業所名	馬瀬グループホームいきいき		
所在地	岐阜県下呂市馬瀬惣島1518番地		
自己評価作成日	令和5年8月18日	評価結果市町村受理日	令和5年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192800064-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年9月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は大自然の中に設立され、利用者様は澄み切った空気を浴びながら暮らし豊かに生活している。法人理念に基づき、ゲストが満足のいく生活を送っているのかを常に考えながら利用者本人本位、自立支援を大切にしている。また職員の声から始まった、利用者様の心身の状態が安定期から不安定、低下期に入ったとき、看取りにはまだ早すぎる、何か出来ることがあるはず、そんな時期を独自の「Yケア期」と名付け、より優しく安らかにゆったりとした時間を過ごす。というような時に本人の好きだったこと、まだやりたいことをお手伝いするYケア期という時期を設け、取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人施設の建物内にグループホームと歯科診療所が併設されている。法人代表は、利用者の口腔ケアに力を入れており、定期的に地域住民の治療にも携わるなど、地域医療に貢献している。利用者・家族の多くが事業所での最期を希望しているが、看取り期前の支援を大切にしたい職員の思いを尊重して、「Yケア期」という時期を設け、利用者と家族の思いを尊重したケアを実践している。自己評価票は全職員で取り組み、項目から事業所の役割を再認識し、業務の見直しに活かしている。家族アンケートも返却率100%で、家族等と良好な関係が構築されていることが見て取れる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をステーション室に掲げ、職員は常に理念を意識しながら利用者の満足のいく暮らしを支援している。	法人の理念と介護に対する心得が記載されたカードを、全職員が携帯している。玄関、事務所など目に付く場所に掲げ、常に理念を意識し「人に寄り添うのではなく、その人に寄り添う」姿勢をモットーに、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染が急速に広がり今年度も地域との繋がりが非常に少なかったが近所からの野菜や果物の差し入れ、近所の出張床屋の利用はできた。また職員は地域の清掃活動に参加できた。	コロナ感染症予防対策を継続しながら、地域の清掃活動には職員が参加している。近所から、季節の野菜などの差し入れもある。建物内に歯科診療所があり、地域住民の受診は無料送迎を行うなど、地域とのつながりを大事にしている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はグループホームのゲスト様も運営推進会議に参加されました、コロナ感染に伴う面会制限の自粛ご理解頂き、また孤立化しないように情報の発信を要望され、毎月の写真付きお手紙はボリュームを増やし日々の様子を詳しく掲示することが出来た	コロナ感染拡大状況に応じて、運営推進会議を開催していたが、今年是对面での会議を行っている。会議で市内事業所の家族面会状況の調査報告を提示し、意見を聞きながら面会方法を決めている。面会自粛時は、家族へ情報をより多く発信し、運営の透明性に努めている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域のケア会議に出席し、両社の情報交換をしながら協力体制を築いている。日頃からの連絡や相談はは電話にて相談することが多い。	行政担当者とは情報交換や電話で相談をするなど協力関係を築いている。サテライト型事業の開設に向けての指導や、市内で働く外国人交流会への参加など、市企画の情報を活用している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一年を通して身体拘束委員会を設置し勉強会の開催や、拘束を行っていない確認を職員同士で常に行っている。	身体拘束廃止委員会を3ヵ月毎に開催し、職員研修会では法人の拘束廃止方針やマニュアルを基に学び、会議録も詳細に記録している。日頃のヒヤリハットをチェックシートで分析し、常にケアのリスク回避を意識しながら、拘束をしないケアの実践に努めている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一年を通して虐待防止委員会を設置し特養と一緒に勉強会や自分の反省点をもとに目標を持ち虐待防止に注意をし防止に努めている。	虐待防止委員会は、身体拘束廃止委員会と分けてあり、議事録も別になっている。研修資料に意見書シートを添付し、各職員が資料からの学びをシートに記入し、自らの姿勢を振り返る作業を行い、何が虐待行為にあたるかを正しく理解し、虐待防止に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年々、独居からの施設入居者が増えている。入居の時は説明をし理解を得ているが現在の所、成年後見人制度の活用者はいない。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明には自宅へ出向くように心がけている。時間をかけ相手が納得されるまで説明を行い、改定後の説明や疑問点などはその都度文章で送付し理解を得ている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族へ運営推進会議の出席の場を案内し意見や、要望を出せる機会を作り意見を聞いてすぐに取り入れれるものは取り入れ反映させている。	外部評価に付帯する家族アンケートは、全家族から回答が得られている。全家族に運営推進会議の資料を配布し、コロナ禍での面会方法も意見を聞きながら進め、信頼関係を築いている。家族への送付物の誤配があったが、原因究明と改善に真摯に取り組んでいる。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットでの会議を設け利用者の事だけではなく働きやすい職場にするには、今困っている事や提案事項を話せる場を設けている。管理者は個々に話も聞いている。	管理者は職員の提案や現場で困っている事など常に聞き、意見を尊重しながら、運営に活かしている。職員からの提案で、利用者の看取り期の前段階を「より・やさしく・やすらかに・ゆったり」過ごせるよう、言葉の頭文字から「Yケア期」と称して、支援に取り組んでいる。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	個人の一年の目標を掲げ毎月評価をし努力や実績を賞与に反映させ、職員が向上心を持ち理念に添ったケアを心がけている。	職員は判断に迷った時は、昼夜問わず管理者に連絡することができ、相談しながら安心して就業できる職場環境にある。資格取得や必要な研修は勤務扱いとし、参加費や交通費の支給もある。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員対象の施設内勉強会は各委員会を中心に活動している。外部の研修を受講し資格所得出来る勤務体制を確保している。	職員一人ひとりが年間ケア目標を具体的にシートに挙げている。努力や実績の評価が賞与に反映され、職員のモチベーションにもなっている。導入しているデイリーシートの記入と分析は、利用者に必要なケアを理解するツールであり、取り組むことで職員の力量を高めている。	技能実習生を受け入れ、介護技術はもとより、宿舎を用意し生活サポートに努めている。若い外国人労働者の生活習慣や環境の違いを考慮したメンタルサポートに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域で開催される勉強会や研修会、講義に参加し、交流やつながりを持ち、職員へは講義、勉強会の内容を会議や書面にて伝えて質の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩という気持ちを持ち、利用者から見習う事もたくさんある。本人本位の思いに添った生活の中でお手伝いさせていた		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の場である中で、一人一人の思いや生活スタイルは大切にしている。必ず本人に決めて頂き困難な場合は選択しやすい質問に変えたり、工夫しながら支援している。	入居前に利用者宅を訪問し、生活の様子を把握した上で、入居後には本人の思いや希望を取り入れた生活ができるよう配慮している。職員は認知症対応のスキルを活かし、利用者の行動や仕草から思いを推測しながら寄り添い、利用者本位の支援に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議では担当者と話し合い家族へは電話にて意見や要望を頂き、安楽に暮らせるようにアイデアを出し合いプランに反映している。	家族が担当者会議に参加した際には、かかりつけ医から利用者の状態を説明することもある。会議に参加できない家族には、電話やメールで要望を聞き、介護計画に反映させている。職員は介護計画を意識して日々のケアを実践し、状態変化を記録している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	機械入力(iPad)と便利な記録の導入に伴い時間短縮につながっているが実際様子が見にくいのが現実、そこでBPSDの進行が見られたり、原因を探る方法としては、24時間生活変化シートを使ったり見当ししやすい物を取り入れ工夫している。	前回課題であったタブレットでの記録項目を増やし、改善につなげている。さらに24時間生活変化シートで、利用者の日々の変化をグラフで見える化したり、毎月のモニタリングを積み重ねるなど、色々な方法を導入し個別支援につなげ、現状に即した実践に努めている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとり、家族の状況が違いうように9人全員が既存のサービスに添って取り組める訳ではない。他に影響が出ない範囲で柔軟なサービスに取り組んでいる。	個浴での入浴が困難な時には、隣接特養の機械浴を利用したり、地元温泉を運んで足湯等を楽しんでもらっていた。職員不足の時は法人の他事業所からの協力体制で緊急事態を乗り切り、利用者サービスが低下しないよう多機能化を有効活用している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元温泉を使った足湯、山菜を摘み料理に畑や地元の産直市場の野菜をつかった料理を楽しみ繋げている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域医療、在宅診療所、水口医師の往診のもと、家族も医師と面談を行い意向の確認をし、利用者はもちろん家族も安心して受診している。	往診時に家族も同席し、利用者の状態について説明を受けるなど、医師との信頼関係を築きながら支援をしている。利用者は、併設の歯科診療所で治療を受け、歯科衛生士資格のある職員が毎月口腔ケアを行っている。家族同行の医療受診時には、事業所から詳細な情報を提供している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ここ一年は利用者の入院は無いが病院関係者とは情報の収集も含めて電話相談をお互いが受けている。	利用者のコロナ感染時には、静養室を陰圧室として用意し、対応する職員を分けて感染予防を徹底し、入院することなく収束させている。入院時に必要な情報はいつでも取り出せる状態にあり、病院関係者とは協力関係が出来ている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期、看取りにはまだ早すぎる、そんな思いを持った職員からの声で施設独自のYケア(より優しく、安らかに、ゆったりとした時間を過ごす)という段階の低下期を設けた。まだ何か出来るはずをテーマに取り組んでいる。	看取り指針の説明と同意書を交わしている。家族は、医師から利用者の状態を聞ける機会が多くあり、意向確認し進めている。看取り期前のケアにも注目し、職員の発案で設けた「Yケア期」には、本人の気持ちに寄り添った支援に努めている。家族も宿泊することができ、利用者との時間を共有できるよう支援している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応方法の消防署による救急救命訓練を全員が受けている。緊急時に実践できずパニックになることを防ぐために定期的に全員が訓練を受けている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通して職員は避難の方法を身につけている。災害時は地域の避難所としても利用できるようまた消防団には協力体制を結んでいる。備蓄、宿舎の完備も整っている。	地形的に、川が氾濫して橋が崩れた時には孤立することも予想される。地域住民の避難所として、宿舎の用意や自家発電機の設置、備蓄品も完備している。事業継続計画(BCP)が策定され、利用者が服用の薬は1週間分は対応できるよう管理している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ゲスト1人ひとりの人生史を大切に昔の話をしながら大切な時間を一緒に過ごしている。プライバシーには小声で話をしたり個々の時間を設け、配慮した声掛けを行っている。	入浴介助は利用者の意向を確認し、同性介助の希望にも応じている。居室入口と廊下は格子戸で仕切られ廊下からは中が見えなくなっており、プライバシーが確保されている。技能実習生には、利用者尊重とケアの関係をわかりやすく指導している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を多くとり利用者の希望を聞いたり、自己決定しやすいように選択肢を絞った聞き方をする工夫をしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの体調も考慮し休みたいときは休み、気の合うもの同士の自由な席、希望にそった支援を行っている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度のリクエストメニューを取り入れて楽しみに繋げたり、一緒に味付けや盛り付けを楽しみまた片付けは全員で行っている	3食手作りの食事を提供している。近隣や家族からの差し入れ野菜を活用し、季節感ある献立で、彩りや盛り付けに配慮しながら提供している。朝食は週3回、ご飯かパンの選択ができ、毎日のヨーグルトや汁物も多い。コロナ禍以前は、家族と一緒に食事を楽しむ機会を設けていた。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が少ない時は食べれるものに変えて提供し、水分も摂取しやすくゼリー状にして提供したり味を付けたり、個人に合った食事形態にしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に一度の歯科衛生士の口腔ケアが実施されており不具合なときは衛生士から指導方法を習ったり、歯科受診を行っており口腔に関してのケアには特化している。	法人代表が歯科医であり、併設の診療所で、口腔ケアの実践に力を入れている。職員も、「体調管理は口腔内の清潔保持から」を共通認識とし、利用者に食後の口腔ケアの声掛けやサポートをしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄のパターンを理解し失敗のないように早めの誘導で快適な生活を送っている。また、自立に向けて早い声掛けと繰り返しの声掛けを行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前入浴希望者と午後入浴希望者に分けた入浴となっている、また、床屋のあった日はその後、お風呂に入れるよう工夫して入浴支援を行っている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活リズムが変わり休息できるよう居室内は清潔に保たれている。夜間は個人の就寝時間を配慮し、睡眠しやすいように、温度の管理も行い安眠でき健康管理を行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に服用している服薬に関して職員は概ね理解している、症状に変化があり変更になった薬については医師からの説明や注意事項をその都度、申し送りにて説明している。	服薬支援で誤薬が起こらないよう、管理を徹底している。処方変更の時は、医師からの説明及び注意事項を職員全員で把握している。利用者の症状に変化が見られた時には、医師にその旨を報告する仕組みが出来ている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性が多い利用者様のため、家事全般をやりがいいに繋げている。食後の後は全員で食器、お膳拭き、おしぼり巻き、料理は味付け、盛り付け、今日食べたい物を今ある材料からアレンジする、そんな楽しみが多い。	利用者は女性が多く、家事作業で出来ることや得意なこと等、役割を担ってもらっている。99歳の男性利用者の楽しみが野球だったことから、野球の話話題に笑顔を引き出している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響もあり全員での外出はできていないが、本人の希望で自宅へ外泊や外出、家族の協力を得て友達に会いに行ったり、天気の良い日や消防の訓練を見学に戸外へ出かける事ができた。	外出支援は、その時の地域の感染拡大状況に準じて、少人数での外出や近隣への散歩にとどめている。また、感染対策を徹底し、時間や場所の制限はあるものの、家族の面会を可能とし、自宅への外泊も許可するなど柔軟に対応している。	

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度のお金を所持することで、気持ちの安心材料になることを家族へも理解頂き所持している利用者は数名みえる。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	繋がりをいつまでも大切に出来るよう携帯電話の所持、手紙でのやり取りは自由出来る。ポストへの投稿は職員が変わって支援しているし、携帯電話の調子の悪い時は職員が手助けしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感のある共用空間を目指し生活に必要な物は置かない、自然の光、音、空気を沢山取り入れて自然治癒力を目指し、季節の花、野菜など沢山採り入れて心地よい工夫をしている。	共用空間を中心に、各居室が回廊のように配置され、リビングに集まり易い動線になっている。死角になる場所はモニターで確認できる。廊下の随所に、寛げるベンチや畳の休憩場所もある。中庭は広く、大きな池で鯉を見たり散策ができる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下を歩く途中には三か所、ベンチがあり外を見ながら休憩出来たり、畳の休憩場所もある、食堂では自由に座れるスペースがいくつもありその日の気分で座る場所を変えて座られる利用者様も見える。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の時から使用していたタンスやミニテーブル、いすなどが置いてあり好みの動物のカレンダーや家族からの差し入れの本もある。毎朝の血圧測定も行い健康管理も行っている利用者もある。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理解しやすい張り紙、休憩スペースの確保移動しやすい廊下、整理整頓を心がけ安全に生活できるよう工夫している。		